

お わ り に

個別の指導計画を作成したけれども、従前の授業とほとんど変わらない。むしろ、その作成に多大な労力を費やし、教材・教具の作成等の時間がなくなった。という声を聞くことがある。個別の指導計画は、それを作成すること自体が目的ではなく、「生きる力」を培うために一人一人の児童生徒の教育的ニーズや障害の状態等に応じたきめ細かな指導の充実、つまり、一時間一時間の授業の充実を図るために作成するものである。

本校では、平成13年度から本年度まで「一人一人の子供の現在及び将来の豊かな生活につながる授業づくり ― 個別の指導計画の作成と活用を通して ―」という研究主題を掲げ、個別の指導計画を生かした授業づくりと個別の指導計画にかかわるシステム(様式や作成手順、授業への生かし方等)の整備・確立について実践研究を進めてきた。

その結果、これまでは指導計画の中の既に決められていた単元や題材の全体目標を基に個々の子供の個人目標を導き出していたものが、個別の指導計画を作成・活用したことにより一人一人の子供の教育的ニーズや障害の状態等を踏まえて全体目標が設定されるようになるとともに、学習活動も一人一人の子供の個人目標に応じて重点の置き所を変えて設定し、集団編成等の工夫もするようになってきた。つまり、個別の指導計画の活用により、個人目標や個別的な活動、支援の手だてをより具体的に設定できるようになり、授業の中で「個別化」と「集団化」が、また、個に応じた指導(学習)の最適化が一層図られるようになってきたわけである。さらに、個別の指導計画にかかわるシステムについては、個に応じた指導目標・指導内容・指導方法を導き出していくための、「子供に関する情報の流れ」と「教師の活動手順」を組織化・機能化することができるようになった。このような取組を進めていく過程及び結果において、それがどのような情報に基づき、どのような手順を踏んで導き出されたのか、決定までのプロセスを明示することができるようになった。このことは、家庭との連携に当たっては、インフォームド・コンセントやアカウンタビリティを果たすことにつながり、教師間においては、組織的な指導、指導の一貫性、授業におけるチーム・ティーチングの向上などに役立った。

ところで、私たちの研究は、改善したとはいえ幾つかの手続きを踏まえなければならず、どうしてこのようなことをしなければならぬのだろうか、自問自答しながら進めてきた時期もあった。

しかし、子供の思いや願い、ニーズ等を把握して、それらを分析検討する作業を通す中で一人一人の子供にとって意味のある必要な指導内容・指導方法を導き出し、一時間一時間の授業を充実することができるようになってきた。このような作業を積み重ねることによって、まだ幾つかの問題点を残してはいるが、一人一人の子供たちはそれぞれに、また、確かに、意欲的・主体的な姿を見せ始めたり、自分の良さや得意なことに気づき積極的な態度を見せ始めたりなどの変容を示してきているのではないかと思う。

私たちがこのような研究を進めてきたのは、子供たちを学習や授業の主体者、また、生活の主体者としてとらえなかったからである。子供たちが、生まれてきて良かった、友達や先生と出会えて良かった、自分にもできることがある、自分もこの集団の中でこの社会の中で必要な人間なんだ、自分もよりよく生きていきたい、と感じられるような教育をしたいと思ったからである。それは、一時間一時間の授業の充実を図ることから始まるのだと考えたからである。

この冊子を手にしたとき、2年間の実践の足跡と、この実践研究を中心的に推進した研究主任、各学部の研究部員、及び教官一人一人の苦悩に思いを馳せるのである。子供の思いや願い、また、保護者の思いや願い、そして、私たち教官一人一人の思いや願いが、この研究主題を追究する原動力であった。いつまでもこの思いは持ち続けたい。

本紀要に掲載した内容は、まだ様々な課題を抱えている。本研究会を通して、また、本紀要を手にした各地の先生方から、多くの御意見や御指導を賜り、今後の研究の集大成につなげていきたいと考えている。忌憚のない御批評、御教示をよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、今回の研究公開に際し、御後援をいただいた鹿児島県教育委員会、鹿児島市教育委員会、さらには研究の推進に当たり絶えず懇切な御指導をいただいた米衛政光先生(牧之原養護学校教頭)、吉田光顕先生(元鹿児島県総合教育センター特殊教育研修室長)、宮内英光先生(鹿児島県総合教育センター特殊教育研修室長)、鹿児島大学教育学部障害児教育学科の久留一郎教授、清原浩教授、内田芳夫教授に深く感謝の意を表します。

平成15年1月30日

副校長 福田 孝 志

研 究 同 人

校 長 松 永 郁 男

副 校 長 福 田 孝 志

教 頭 五 反 田 勝

【 小 学 部 】

前 園 孝 哉
中 村 周 一 郎
☆ 濱 崎 信 一
☆ 山 下 英 一
☆ 木 戸 ルリ子
佐 藤 美 由 紀
宮 脇 美 峰
本 村 祐 貴 子
西 種 子 田 芳

【 中 学 部 】

中 村 豊 隆
土 井 靖 之
鶴 田 弘 文
河 野 通 堯
☆ 水 野 高 明
☆ 黒 木 史 子
横 山 み ず え
中 村 麻 子

【 高 等 部 】

中 島 芳 博
☆ 大 山 隆
福 田 展 大
小 山 浩 平
藤 上 実 紀
☆ 岡 元 明 広
鎌 田 志 穂
倉 内 隆
尾 山 恵 子

【 養 護 教 諭 】

西 田 恵 子

☆ : 公 開 研 究 部 員

【 転 出 】 厚 東 孝 治
西 村 礼 子

井 上 隆 司
久 保 美 由 紀

有 田 研 二